

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTBビル 8F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX: 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻 頭 言

歴史の証言者、地方会ニュース ～第 100 号発刊に当たって～

東海地方会 会長
大同特殊鋼 (株) 統括産業医 齊藤 政彦



東海地方会の機関誌である地方会ニュースの第 1 号が発刊されたのは、1984 年で、ちょうど私が大学を卒業した年です。足かけ 40 年、記念すべき 100 号を迎えるこの時に地方会長の任にあることを誇りに思いま

す。改めて第 1 号を読みますと、巻頭に二代目地方会長である皿井進先生 (題字執筆) と三代目の島正吾先生の対談が掲載されています。記事の中で触れられていますが、地方会誌を発刊したのはおそらく東海地方会が最初ではないかとのことです。歴史の深さを感じると同時に、お二人にお会いした懐かしい日々が思い出されました。その後、東海地方会は順調に発展を遂げ、当時 320 余名の地方会員が、現在約 900 名で、関東、近畿に次いで三番目に大きな地方会です。

地方会ニュースは、途中三年ほど中断した時期がありました。その後は編集委員会が組織され、編集委員長の下で安定して編纂が行われてきました。ニュースは会員相互のつながりの媒体であり、また全国への東海地方会の活動をアピールするツールでもあります。活動の記録という意味では読み直すことにも価値があります。地方会のホームページに初刊以降の PDF が掲載されていますので、是非ご覧ください。

ご存じのように、東海地方は製造業が多く、典型的な産業保健活動が展開されてきた地域であり、日本産業衛生学会をリードしてきた歴史があります。東海地方

会の特徴はそのまとまりの良さです。会員相互の信頼の基盤の一つが、地方会ニュースにあると考えています。昨今、機関誌の電子化が進んで、既にいくつかの地方会ニュースは郵送が廃止されていますが、やはりアナログで手元に届くことで地方会員という自覚が持っていると考えています。

地方会活動としては、定期的に回ってくる学会や全国協議会の企画運営に加えて、独自に秋の地方会学会と年明けの産業保健スタッフのための研修会を主催しています。また各部会や研究会の活動を支援しています。今後も、入っていてよかったと実感できるような地方会になるように地方会ニュースの価値を高めていきたいと考えています。原稿執筆等をお願いすることがあると思いますが、ご協力の程よろしく願います。そして 2036 年には地方会が創立百周年を迎えます。それに向けてニュースは歴史の証言者として地方会活動の歩みを記録し続けていくことでしょう。



100 号発刊 特集記事

産業衛生学会の活動を振り返って

東海地方会長 1993 年 4 月～2002 年 3 月 竹内 康 浩



日本産業衛生学会東海地方会は戦前から産業衛生活動が盛んで、名大衛生学教室の初代教授である鯉沼先生が初代の産業衛生学会東海地方会長を務め、多くの大学の研究者や産業医を育てました。特に、名大第一内科神経科(祖父江教授)と名大衛生学教室とは症例や職場の調査等で共同研究を行っていました。その中でも、三重県桑名市のビニルサンダル職場で多発した多発性神経炎の調査は大きな成果を挙げ、国際的にも評価されました。1979 年 8 月 2 日～10 日、労働衛生研究者訪中団が「産業中毒便覧」出版を記念して、中国の労働衛生事情を視察しました。中国の文化大革命が終焉し、改革開放路線に則って中国から多数の学生が日本や米国に留学しました。中国からの留学生たちが日本の労働衛生の発展にも寄与しました。1985 年 11 月 22 日の産業衛生学会東海地方会で、精神障害や皮膚障害が大きな課題になり、特別講演として精神科の笠原教授による「職場の精神衛生—最近の話題」と、環境皮膚科の早

川教授による「職業性皮膚障害の原因物質の解明—最近の進歩」が、時機を得た講演として好評でした。

1993 年 4 月 13 日、東海地方会長を島正吾先生から竹内が引継ぎました。私の前任者の島先生が亡くなっているため、私の地方会長以前の東海地方の産業衛生活動について少し触れました。

1994 年 6 月 17 日、日本産業衛生学会東海地方会総会及び研修会に小木先生も参加されました。小木先生は ILO で国際的に活躍され、1979 年の労働衛生研究者訪中団にも参加されました。東海地方会の発展にも尽力され、私の次の東海地方会長を務められた井谷先生が小木先生の後任として ILO に赴任されました。

1994 年 10 月 4 日、兪小忠君が名大衛生大学院に入学しました。兪小忠君は南京医科大学の卒業で、上海医科大(復旦大)で勉強していた勤勉で謙虚な学生で、よく勉強しました。2002 年 3 月 19 日に、兪小忠君が主著の 2-ブロモプロパンの生殖毒性に関する我々の論文が 2001 年度の米国中毒学会(SOT)で、学会誌 Toxicol Appl Pharmacol の 2001 年度の最優秀論文賞を受賞しました。兪君は現在、米国の大学で活躍しています。



竹内 島正吾 小木 (ILO)
東海地方会総会及び研修会 (ルブラ王山)



小川 兪 市川 竹内
2002/3/19 SOT ベスト論文賞受賞

東海地方会と私

公益財団法人 大原記念労働科学研究所 理事 井谷 徹



私は、1991 年 10 月に名古屋市立大学医学部衛生学教室（2001 年に名古屋市立大学大学院医学研究科 労働・生活・環境保健学に改組）の青山光子教授の後任として赴任したのを契機に、日本産業衛生学会東海地方会

に所属させて頂きました。その後、2007 年 2 月にスイス・ジュネーブの国際労働機関 (ILO) に労働者保護局長として転任するまで、15 年以上、東海地方会に所属していました。

東海地方会に参加する以前には、関東地方会、中国地方会に所属していましたが、それらの地方会に比べ、東海地方会は産業現場で実践活動に従事している産業医、産業看護職、産業衛生技術職、産業歯科医などの会員と大学・研究所などの教育・研究職の会員がより緊密に連携して活動を展開していると感じました。また、大学・研究所所属の皆さんも産業現場と繋がりをもって研究・教育活動に従事している方が多い印象を持っています。私自身は、産業疲労、頸肩腕障害、参加型作業改善活動などをテーマとして研究を行ってきましたが、労働の場における広義の健康問題の解決・改善につながる活動を心掛けていました。

地方会における私自身の活動としては、竹内康浩先生の後任として、2002 年 04 月から 2007 年 02 月

の間、地方会長に就任させて頂きました。2004 年 4 月には東海地方会がお世話をして日本産業衛生学会総会を開催した際には、企画運営委員長を務めさせて頂きました。学会の内容、参加者数などからみて、成功裏に開催することが出来たと思っております。浅学菲才の私が地方会長の任を何とか果たしてこれましたのは、活動を支えて頂いた名市大学院医学研究科労働・生活・環境保健学のスタッフ・関係者や東海地方会会員の皆様のご協力のおかげと感謝しております。

上述のごとく、私は、東海地方会に約 15 年お世話になり、その後、スイスの ILO 事務局に労働者保護局長として 2 年間転出しました。帰国後は、労災保険情報センター (RIC) の専務理事・常任理事長、NTN 岡山工場の産業医などを経て、現在は、大原記念労働科学研究所理事・主管研究員、アサヒ食品岡山工場非常勤産業医に就任しています。東海地方会を離れ 15 年以上経ちますが、私にとって東海地方会に所属した 15 年間は、幅広い産業保健の活動を経験させていただいた貴重な期間でありました。現在は、中国地方会に所属しております。学会活動からは少し身を引いた感じになっていますが、今後も、産業保健活動には関わりを持ち続け、微力ではありますが、産業保健の向上に貢献したいと思っています。最後となりましたが、東海地方会の皆さんが、東海地方のみならず、全国的、さらには国際的に活動を展開し、労働の場における健康問題の解決・改善に貢献されることを期待しています。



産業看護部会 部会長の振り返り

株式会社ジェイテクト 人事部従業員支援室健康推進安全 G 保健師 杉本 日出子



東海地方会ニュース 100 号の発行おめでとうございます。

私は、2014 年に国際セントラルクリニックの和田晴美さんから東海地方会産業看護部会部会長を引継ぎ 2018 年までの 4 年間担当いたしました。和田さんから「若い人

にバトンタッチしていかないかね。頼むわね。」と背中を押された日を懐かしく思います。

部会長になった時「21 世紀の労働衛生研究戦略」のアンケート調査を実施して会員がどんなことに関心を持っているかを知りました。本アンケートの結果、関心の度合いは“メンタルヘルスと産業ストレス”、“多様化する労働形態と健康”、“情報技術 (IT) と労働衛生”の順に高いことがわかりましたので、その結果を活かすために産業看護部会のホームページを作成して会員に

タイムリーな情報を提供したいと考えました。すぐ作成に着手しましたが、ホームページは完成できず、考えていたことは“絵にかいた餅”で終わってしまいました。産業看護部会の会長としての役割はあまりできなかったことを反省しています。

良い思い出は、産業看護部会の代表として大同特殊鋼(株)の斎藤先生と当時名古屋大学の上島先生と「若手研究者を応援する会」(現在の学術研究推進委員会)の立ち上げに参画できたことです。若い先生方が研究しやすい環境をつくるにはどうしたらよいかを議論しました。発表の場づくり、研究費の捻出など将来を見据えた環境づくりの大切さを学びました。地方会学会で若い先生方が生き生きと発表される姿を見て感動したことを思い出します。

今回執筆の機会をいただいて 10 年前の出来事を思い出すことができました。

これからも「働く人の健康を守る」という東海地方会の先輩方の思いを繋いでいただけると嬉しいです。

産業医部会の振り返り

トヨタ自動車株式会社安全健康推進部主査 明知工場 産業医 岩田 全 充



地方会ニュース 100 号おめでとうございます。この機会に医部会発足当時に振り返らせていただきます。井谷徹先生が二期目の地方会長に就任された 2005 年に東海地方会内に 4 部会が設立されました。本部部会と

の連携の下、当地域で活動する各領域の会員が相互に研鑽、情報交換するとともに親睦を深める場になることが目的でした。井谷先生より産業医部会会長を仰せつかり、村崎元五先生とともに斎藤政彦先生の指導の下、活動を開始しました。産業医の交流の場として、東海産業医懇話会を立ち上げました。目的は活躍中の産業医の連携と新たな産業医の育成でした。そこで最初の 2 回 (2006 年) は「わが社の産業保健活動の現状と課題」と題して約 10 企業の産業医から報告をいただきました。忌憚のない意見を出し合い、本音の話し合いができました。以後第 3 回「産業医のあり方」、第 4 回からは

個別テーマに入り「復職ができている「適応障害」例」、第 5 回「メンタルヘルス不調者を出さない組織・企業作り」、第 6 回「職場改善演習—CD を活用して」、第 7 回「職場不適応を考える」、第 8 回「海外勤務者の健康管理」第 9 回 (2015 年) 「がん患者の就労支援」を取り上げました。2016 年から部会長を石川浩二先生に引継ぎ私の役目は終了させていただきました。この間、会にご参加いただきました諸先生、会場を提供いただきました愛知健康推進財団 (斎藤先生ご紹介) 様、中部大学 (城憲秀先生ご紹介) 様にはお礼を申し上げます。東海地方は日本最大のモノづくりの地域であり、多くの優れた先輩方が活躍された伝統があります。各大学には産業衛生・保健を主テーマとする講座があります。当時、私は弊社の産業医不足に悩んでおりましたので、企業と大学が連携してこの地方独自の産業医育成の仕組みを作りたいと考えておりました。その希望は果たせぬまま、現在は一産業医として、日々悩みながらも楽しい日々をすごしています。東海地方会が学問、人材育成など今後ますます発展されることを祈念いたします。

産業歯科部会について

金山歯科医院 (労働衛生コンサルタント) 金山 敏 治



1978 年に、東海市の新日鉄で実施された日本歯科医師会の産業歯科医研修会で東海地区の産業歯科活動が活性化され、名古屋で開催された第 68 回、77 回の日本産業衛生学会総会に、愛知の産業歯科グループとして学会に協力させて頂きま

した。

その後、鶴友会館で開催された理事会に金山が出席し、2005 年に井谷徹地方会長に産業歯科部会設立のご提案をいただき、1 年の準備期間を経て愛知学院大学口腔衛生学教室(中垣春男教授)と愛知労働衛生コンサルタント歯科会(大場明夫会長)で 2006 年に産業歯科部会(金山部会長)を設立、翌年には日本産業衛生学会に産業歯科保健部会が設立されました。

産業歯科部会は、設立総会を 2006 年 11 月 20 日

に朝日大学丸の内ビル(参加者数 17 名)で開催、同時に第 1 回研修会も部会長と会員の瀧昌弘先生を講師に「リスクアセスメントについて」実施しました。その後、原康二、加藤一夫部会長と交代、研修会は産業医・産業看護・産業技術部会から講師を招いて職場の健康づくりも連携しています。

歯科特殊健診は、2004 年の国立大学等の独立法人化に伴い、研究所の実験室・分析室で化学物質を取り扱う研究者にも労働安全衛生法 66 条 3 項の歯科健診が実施されています。2014 年に、歯科特殊健診検討グループ(藤江正人リーダー)も発足し、岡崎歯科医師会で、作業状態の把握と、口腔写真添付の歯科特殊健診票を作成して、2022 年 10 月 1 日に改正された労働安全衛生施行令 22 条(有害物について、労働者数に拘わらず歯科健診結果の監督署への結果報告(様式 6 号の 2)が必要)にも対応しています。

最後に東海地方会のますます発展を祈念すると共に、産業歯科部会へのご支援、ご指導宜しく申し上げます。

東海地方会産業衛生技術部会の将来に期して

中部大学生命健康科学部 保健看護学科 城 憲 秀



日本産業衛生学会東海地方会の産業衛生技術部会(以下、技術部会とします)は 2005 年に名大の那須民江先生を初代部会長として発足しました。那須先生は部会会員名簿もない状況の中で部会の拡大に奮闘されました。

当時の活動としては愛知県の衛生管理者の方々との研修会などを企画、開催されましたが、部会員の把握もできない状況で、部会からの参加は多くはありませんでした。那須先生もご苦勞を重ねながら部会活動の活性化に尽力されました。那須先生のおあと、私が部会長になったのは 2009 年度からです。那須先生の部会活動活発化へのお気持ちを引き継ぎ、まずは部会のあり方を確立するため、活性化委員会を立ち上げました。委員会では、技術部会の主要会員とともに、今後の活動方針を検討し、2 つの提議がなされました。ひとつは学会の本務である研究側面での貢献です。技術部会の専門である作業環境、衛生管理、

人間工学を通じた産業衛生研究・実践活動についての講演やシンポジウムなどを開催し、地方会技術部会員、さらには地方会全体を対象として先進の学術・技術情報の提供を実施いたしました。私が部会長を務めていた 10 年間に作業環境・化学物質関係の発表 13 件、人間工学・ISO 関連 2 件、労働衛生政策や技術部会の役割に関する発表が 7 件なされております。この企画については地方会内部でも好評であり、地方会の 1 つの企画として定着したものと自負しております。活性化委員会で提議したもうひとつの方向性は会員拡大でした。東海地方会を構成する 4 県に地方会技術部会の世話人をおき、その世話人の先生方が中心となって各県で会員獲得に奮闘してもらいました。

那須先生、加藤隆康先生、土屋真知子先生をはじめとする部会員諸氏や地方会のご支援を受けて私ができたのはここまでです。2019 年からは現部会長の榎原洋子先生に交代し、先生の下で活発な活動が進んでいます。これからの技術部会に地方会の皆様のご協力をお願いするとともに、一層の期待をさせていただきたいと存じます。

インタビュー

現場のニーズから切り拓いた社会医学人生 — 岐阜大学名誉教授 岩田弘敏先生に聞く【前編】 —



2022 年 10 月 29 日、岩田弘敏先生の岐阜市のお宅に伺い、健康ミニセミナーにもお使いの広い応接間でインタビューをさせていただきました。

(聞き手：柴田英治、久永直見)

1. 満州で生れ、日本へ

私は、1936 (昭和 11) 年満州承德で生まれました。父は、静岡県三ヶ日の農家の出身で、丁稚奉公の後、承德の駐在所の巡査の募集に応募して採用され、満州に渡り巡査をしていたのです。私が 4 歳の時、父は巡査を退職し、上海で日本人アパートを経営するようになりました。アパートの中国人従業員の一人が結核に感染し、乳幼児の弟が感染発病しました。1945 年の春になると、上海のアパートの近くで爆弾が落ちるようになり、蒙古宣化に疎開することになりました。汽車に乗って北京を経由して宣化に向かう途中米軍の空襲を受け被害を受けましたが幸い被弾することはありませんでした。宣化に着いた翌日が 8 月 15 日の終戦でした。先発した父は行方不明となり、母は着の身着のまま、結核に罹った 4 歳の三男を背負い、長男で 9 歳の私と 7 歳の次男を連れて、貨物列車に乗せられ、北京に行き、収容所に入りました。その後、天津、青島を経て、1946

年の 2 月に輸送船で佐世保に還りました。私は結核を発症していた弟が船内で死なないか心配でした。佐世保上陸時、すぐに全身に DDT の白い粉をかけられたのを覚えています。

2. 大学入学まで

母親は実家のある愛知県新城をめざして私たちを連れて佐世保から鉄道で豊橋へ、豊橋から飯田線で新城へ移動しました。母の実家は八名村で静岡県の三ヶ日の隣になります。飯田線の新城駅から結構遠く、母親が子どもたちを連れて歩くのは大変でしたが、運良く八名村のおじさんに頼んで荷馬車の荷台に乗せてもらいました。母親の実家のあるところといっても土地、家、着る物もなく、隠居していた母の両親の家にしばらく居候させてもらうことになりました。小学校の 3 年3学期が半分くらい終わっている時期で、私は 10 日間の補習を受けて 3 年生に編入してもらいました。弟は 1 年生に編入されず翌年 1 年生として教育を受けることになり、私とは学年が 1 年離れることになりました。

8 月に行方不明だった父がひょっこり帰ってきました。父は家族を養うため、しいたけ栽培、祭の露天商、家では自転車に持ち主の名前を書く仕事、養豚、ヒツジ、牛、鶏を飼って収入を得て家計を支えました。編入生の私は小学校で憐れみを受けましたが、いじめられることはありませんでした。3 年後結核に罹っていた弟が亡くなりました。私は弟の死に直面したことで医師になる決心をしました。

中学に進学した頃には居候していた家の庭を潰して家を建てることができ、ようやく居候から脱することができました。中学 1 年生のとき東三河の中学の部の弁論大会に出場し、弟の死から医師になる決心をした話をして優勝しました。父は製粉、精米、製麺などの仕

事を始めました。小麦俵を集めてうどん、そうめんなどにする仕事が次第に本業になっていきました。私はしばしば小麦の入った俵を担いで家まで運び、家にいる限りはうどん打ちをしました。高校に進学したころ、父はサトウキビ液から砂糖をつくる仕事を始めました。私は釜に入ったサトウキビ液を煮詰める仕事を手伝いましたが、これは 24 時間火の番をしなければなりませんでした。試験勉強をしながら、居眠りしてしまい、前髪を焦がしたこともありました。

当時の私は医学部に行く学力はなく、学費を払う力もありませんでした。父が新聞で裁判所の書記官の募集を見つけ、これなら月給をもらって学校に通えると勧めました。筆記試験には合格しましたが、二次の面接で落とされました。資産がないことが理由ではないかと思っています。その後、一浪して岐阜県立医科大学に入学しました。

3. 医学部から公衆衛生学の大学院へ

医学進学課程の間は工学部のある各務原のキャンパスに通学しました。初めの 2 年間は実家から月 5 千円の仕送りをしてもらいました。多くの同級生の仕送り額は 1 万円、開業医の息子になると 2 万円でした。月 200~300 円の家庭教師のアルバイトも 2,3 軒やりました。岐阜大学助教授、県歯科医師会長などの子女の家庭教師もしたこともあり、よく夕食をご馳走になり夕食代が助かりました。3 年生になって医学部の専門の授業に入ると仕送りを 1 万円に上げてもらいました。

こうして何とか岐阜大学医学部を卒業することができました。当時はインターン制度の下、各科を回りました。将来進む診療科として、小児科に興味を感じました。亡くなった弟のような医療にかかれぬ患者をどうすればいいかを考えました。大学病院には重症患者もいました。先天的な疾患の場合は根本的な治療を期待することはできないと考え、次に産婦人科に傾きました。産婦人科の教授からは熱心に勧誘されました。しかし、私は病気になってから治療するのでは遅いのではないかと考えるようになってきました。そんな頃、保健所実習でたまたま所長から思春期教育、妊娠初期の

講話を聴く機会がありました。これで予防の重要性を痛感させられ、保健所に行こうと考えました。

岐阜大学公衆衛生の宮田昭吾助教授のところに行き、自分の気持ちを話すとともに、教室の仕事などを伺いました。これで私は公衆衛生学教室に入ることを決めましたが親は反対しました。当時の公衆衛生教室にポストがないため、宮田先生からは大学院に行けと言われ入学しました。大学院との単位互換ができた当時の国立公衆衛生院の正規課程医学科 1 年コースに入り、東京で暮らしました。コースの終りに 3 カ月間の院外自由研究があり、労働衛生研究所(現在の労働安全衛生総合研究所)を選択しました。そこには、教室の先輩の吉川博先生(後に岐阜大教授)がおられ、有機亜燐酸化合物中毒の動物実験を主に研修しました。この物質は、当時、合成樹脂製造に使われ始めていましたが毒性がほとんど不明でした。1964 年に大学に戻って追加実験をし、吉川先生の指導で論文にして産業医学第 7 巻に発表しました。これが私の最初の研究論文です。

4. 振動障害との出会い

公衆衛生学教室の教授であった館正知先生の指示で 1964 年 10 月から 3 カ月間の予定で三井金属神岡鉱業所の「医師である衛生管理者」(今の産業医)として、先輩の松田美泰先生、井口恒男先生の後を受けて出張しました。鉱山では振動障害が課題でした。従来、鉱山の振動障害は、レイノー現象よりも腱鞘炎や肘関節障害などが主とされていました。しかし、金属鉱山では 1950 年代に粉じん対策のために水を噴射しながら掘る削岩機が導入されて坑内温度が著しく低下し、レイノーが始まったようでした。これが振動障害の一所見かどうかをめぐって労使交渉が始まり、神岡鉱業所は独自に調査を始めたのです。年が明け 65 年になっても神岡の後任が来ず、私は 3 月まで健診や業務を続けました。鉱山では皮膚温計など振動障害の検査に必要な機器を注文していました。私は東京まで行って体温計のメーカーに皮膚温が測れる機器の開発を依頼し、何とか測れるようになりました。また、毛細血管の状態

を見るのに顕微鏡での検鏡を試みましたが、このやり方では集団健診には向かないと思い、結局爪圧迫検査で毛細血管の状態を診ることにしました。こうして振動障害のための健康診断にめどがつかしました。その間には、神岡鉱山病院副院長と東大で同級の勝沼晴雄先生から東京に呼ばれ、小泉明先生や鈴木継美先生の指導も受け、文献も入手しました。その 3 月、名大の山田信也先生による付知の国有林のチェーンソー作業の調査が NHK のドキュメンタリー番組の現代の映像で「白ろうの指」として放映されました。それを見た神岡鉱業所の従業員は、自分たちの症状と同じだと訴え始めました。私は、レイノーの発症率が高く職業性に違いはないと考え、神岡での調査結果を同年の産業衛生学会で報告しました。その後も、神岡に行き、寒冷ばく露、振動測定、末梢神経や末梢循環を調べて学会報告をしてきました。振動加速度の測定は、第一人者である労働衛生研究所の三輪俊輔先生から学びました。医学博士号取得の論文は振動障害をテーマにした英文論文 3 編となりました。当時振動障害の発生職場として林業が注目されていましたが、金属鉱山についてはあまり報告がありませんでした。当時の教室では重金属中毒研究が中心で、振動障害に取り組む者はいませんでした。全国的にも振動障害の研究者は山田先生などごく少数でした。

こうして大学院時代は終わりましたが、その頃は教室のメンバーが次々に大学から転出し、私は大学に残らざるを得ない状況になりました。大学院修了後、幸い助手になることができました。ところが、次の年くらいから館先生は、3 か月間のイラン出張、学生部長などいろいろな仕事を引き受け、多忙を極めるようになりました。私に対しては教室の切り盛りをするように言われ、講師になりました。イラン出張から帰国した館先生は私にこのまま大学に残るのかと聞かれました。私は岐阜大学にいと伝えしました。その後館先生は医学部長に就任され、1970 年に私は助教授になりました。

5. 西ドイツで在外研究

1971 年から 1 年間、旧西ドイツのバート・クロイツナッハのマックスプランク農業労働・農業技術研究所に客員教授として滞在しました。この研究所との橋渡しを三輪先生がしてくれました。任期の 2 ヶ月前にミュンヘンに行き、ドイツ語を習いました。家族は任期開始時に合流しました。ドイツへの移動はノーマル運賃で娘 2 人で 25 万円、妻と私で 25 万円ずつ、合わせて 75 万円になります。当時は月給が 2 万円の頃で、やむを得ず親に借金しました。

研究所には医師はおらず、農学関係の人たちがいました。滞在初期、北欧の研究者が書いた振動障害の英文総説のドイツ語訳を頼まれました。ついでに日本の振動障害研究も加えた総説とも言われ、苦労しましたがドイツ語で書きあげました。研究所の人間・機械系研究グループではトラクターなどの乗り物の振動とその人体影響を研究していました。当初の私の任務は、救急車などの寝台に寝たヒトへの振動の影響評価でした。しかし、模擬寝台設置が遅れることが分かりました。そこで、西ドイツのチェーンソーメーカーから研究所が依頼された新製品の振動評価に任務を変更しました。手腕振動研究は、研究所としては未経験でしたが、私には好都合でした。小型の振動ピックアップを 10 余人の被験者の手背、肘、肩に付け、試験周波数で振動するハンドルを最大握力の 75、50、25、0% で握らせて、振動と表面筋電図を記録しました。その結果、共振周波数を明らかにでき、ドイツ語の原著論文を翌年 2 編発表しました。2 編のうち 1 編は ISO の振動のドラフトに、参考論文として紹介されました。熊本大の野村茂先生からドイツ語の論文を 1 年で 2 編よく書けたねと褒められました。

2024 年 1 月号に続きます。お楽しみに。

リレーエッセイ

ChatGPT が答えた「産業医」とは？

パナソニックインダストリー株式会社 メカトロニクス事業部 伊勢地区 産業医 山口 威 俊



このリレーエッセイのバトンを引き継いだ時から何をテーマに書こうかと思案していたところ、ChatGPT が簡単に使えるようになったニュースを目にしました。そこで、人工知能はどこまで産業医を正確に表現でき、人工知能の世界でどの程度認知されているのか試してみました。ちなみに ChatGPT とは OpenAI 社が開発、2022 年 11 月に公開され、日本語での問いかけに対しても、自然言語処理で回答を行なう AI チャットサービスです。

筆者の質問は「産業医について文章を書いてください」でした。以下、ChatGPT の回答ですが、アンダーラインの部分は不正確または違和感のある部分です。

(ここから) 産業医とは、企業内で働く従業員の健康維持や労働環境の改善、職業病の予防等を行う医師のことを指します。産業医は、従業員の健康維持や生産性の向上に貢献することが使命となります。産業医は、従業員の健康維持に対する責任を持っています。そのため、定期的な健康診断を実施し、疾患の早期発見・早期治療を行い、健康状態の改善を図ります。

また、従業員の労働環境の改善にも取り組み、通勤や労働中の事故・災害の予防にも力を注いでいます。さらに、産業医は職業病の予防にも貢献します。職業病とは、働くことによって引き起こされる疾患のことを指し、産業医はそれらの病気を未然に防ぐために、予防活動や職場での作業指導を行います。また、職場で発生する疾病や怪我に対し、迅速な対応をすることも大切であり、産業医は緊急時の応援や対応も行います。産業医

の役割は企業にとっても非常に大きく、健康な職場環境は従業員の生産性向上につながります。

また、従業員の健康に対する配慮が行き届いた職場にはやる気のある従業員が多く、企業の競争力向上にもつながります。そのため、産業医は企業にとって欠かせない存在といえます。産業医は、国家資格の一つである「産業医」の受験に合格し、企業に雇われる形で働きます。また、産業医は、産業医療を提供する法人である「日本産業医科大学」や、産業医となるための教育機関である「産業医養成機関」が存在しています。これらの機関は、産業医の人材育成や研究、支援、情報提供等を行い、産業医療の向上に貢献しています。産業医は、企業内で働く従業員の健康維持や職場環境の改善、職業病の予防等、多岐にわたる役割を担っています。企業にとって欠かせない存在であると同時に、生産性を向上させるためにも重要なポジションと言えます。今後も、産業医という職業が、企業と社会の健康・安全確保に貢献することを期待しています。(ここまで)

全体像としてはまずまずといった印象ですが、産業医の資格や産業医科大学など教育機関の理解についてはまだまだのようです。また、「産業医療」という新しい言葉も作ってしまいましたし、具体的な活動の中身についての言及は乏しいように思えました。驚いたのは「生産性向上」や「競争力向上」というところまで言及されていたことです。皆さんの印象はいかがでしたか？今のところ産業保健と AI のかわり方は未知数ですが、健康相談などは近いうちにとって代わられる可能性を感じました。

次の執筆はブラザー工業の統括産業医、上原正道先生をお願いいたしました。どうぞよろしく申し上げます。

開催報告

第 35 回 産業保健スタッフのための研修会を終えて

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 保健師 松浦 清恵
(第 35 回産業保健スタッフのための研修会企画委員長)



2022 年度の産業保健スタッフのための研修会を 1 月 21 日 (土) に開催しました。今回の研修会は、初めての共催セミナー (大塚製薬(株)メディカルフェアーズ部様) と教育講演の 2 本柱での企画とし、Zoom によるオンライン形式で開催しました。

第 1 部【共催セミナー】では、富士通健康推進部/三越厚生事業団診療所の横山雅子先生に「頭痛のプレゼンティズム&アブゼンティズム」と題して、ご講演を頂きました。国内外の頭痛に関する大規模調査データから頭痛による生産低下は大きく、プレゼンティズム対策の重要性が高まっていることをお示し頂きました。また、頭痛の分類や特徴、症状や経過、診断基準、そして頭痛を改善するための具体的なセルフケアや治療方法の解説とともに、頭痛の慢性化や急性期治療薬の使用過多に注意した正しい理解の普及が必要だと教えて頂きました。

第 2 部【教育講演】は、一宮労働基準監督署の大久保克己先生による「健康診断・特殊健診：最近の行政・法律の動向」のご講演と、各部会代表者からの本テーマに関する問題提起や活動報告としました。大久保先生からは、実際に事業場へ行かれ対応した事例を踏まえ、化学物質の危険有害情報は、伝達するだけでなく、暴露ルートの特定や作業分析、および呼吸用保護具や化学防護手袋などの適正化を図るなどの有効活用が重要であること、最近の法改正として事務所則、歯科健診の結果報告、新たな化学物質管理について解説頂きました。

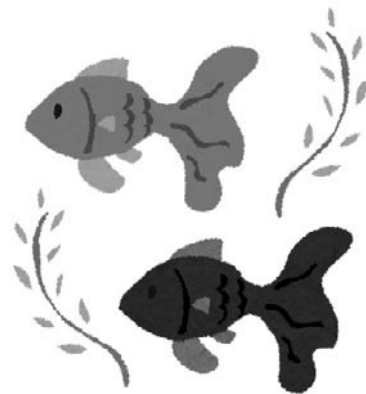
その後、各部会代表者からの【問題提起】として、高畑真司先生 (産業医部会) から健診結果の集団分析、長谷川佳代子先生 (産業保健看護部会) からは、健診未受診者のフォローと保健指導、軸丸靖章先生 (産業衛生技術部会) からは、化学物質規制の見直しと特殊健診、金山敏治先生 (産業歯科部会) からは、歯科特殊健診について、具体的な活動内容や問題点などをご発表頂きました。

オンライン研修会でしたが、講演終了後には参加者との活発な質疑応答があり、さらに学びを深めることができました。ご講演、ご発表を頂きました先生方には、に心より御礼申し上げます。

参加者アンケート結果では、共催セミナー、教育講演、各部会発表について、いずれも約 9 割が「満足」、「研修会の総合満足度」は、96%が「満足」と回答頂きました。なお、参加者の職種は、保健師 49%、医師 20%、看護師 19%、歯科医師 5%、衛生管理者 2%、その他 (大学の研究職など) 5%でした。過去最高となる 249 名の方が参加され、大変有意義な研修会となりました。この場をお借りして、ご参加頂きました皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

2023 年度は、新たに吉田美昌先生 (産業医部会)、望月友美子先生 (産業保健看護部会)、梅村朋弘先生 (産業衛生技術部会) に企画委員に加わって頂き、皆さまのスキルアップに繋がる研修会を企画・開催したいと思いますので、引き続きご指導・ご協力を頂きますよう、よろしくお願いします。

末筆になりましたが、今回で企画委員を退任されます浜松医科大学の渡井いづみ先生と浜松ホトニクス(株)の菅沼要一郎先生にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



日本産業衛生学会 東海地方会 産業衛生技術部会 特別企画研修会 「労働衛生の近未来を志向する」に参加して

修文大学医療科学部 講師 鈴木 隆 佳



2022 年 12 月 18 日 (日) に、ウインクあいちで開催された東海地方会産業衛生技術部会特別企画研修会に参加いたしましたのでご報告させていただきます。今回の特別企画研修会では現地開催と WEB 会議ツール

Zoom によるオンライン同時配信のハイブリッド形式で開催されました。「労働衛生の近未来を志向する」というメインテーマをもとに、第 1 部は「低周波騒音の健康影響について」という題で名古屋大学の大神信孝先生からご講演いただきました。第 2 部では良好事例報告ワークショップとして「リスクアセスメント・リスクコントロール GP に学び合う」という題で、社会福祉法人聖隷福祉事業団保健事業部の軸丸靖章先生、中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンターの鹿島聡子先生、株式会社東海分析化学研究所の大場恵史先生、株式会社富士清空工業所の奥田篤史先生、愛知教育大学の榊原洋子先生 5 名の先生から報告いただきました。最後に愛知労働局の濱田勉先生から指定発言をいただきました。

第 1 部の大神先生のご講演では、私にとってはあまり聞いたことのなかった低周波騒音というものについて、その概念から丁寧にお教えいただきました。騒音といえば、自動車や工事現場などの大きな音や、分析装置の作動音、ヒトの会話の声など、日常にある比較的大き

めな音と認知しておりました。しかし、低周波騒音では、人の耳では感じ取りにくい低周波域での音であるために聴覚には影響を及ぼさないが、平衡感覚に影響を与えて倦怠感や睡眠障害などの不定愁訴を引き起こすことを知り、非常に興味深く学ばせていただきました。職場環境には低周波騒音の発生源となりうるものが多数存在していることから、労働者の健康を管理する上で、労働時間や対人関係のストレスだけでなく、物理的な職場環境の改善も視野に入れて注意することが必要なのだと強く感じました。

第 2 部のリスクアセスメント・リスクコントロール GP による良好事例の報告では、奥田先生による大学実験室をモニターしたリスク評価のご報告が、大学で働く自分にとってはとても興味深い内容でした。また、鹿島先生からご報告のあった SDS を活用したマニュアル作成に関する内容は、化学物質を取り扱っているにもかかわらず、これまでしっかりと確認せずにいた SDS について、改めてその重要性を確認するきっかけとなり、研究室での試薬類の取り扱いについて見直すことに繋がりました。

今回初めて技術部会に参加をさせていただきましたが、他職種の方々の現場での取り組みや問題点など、大学にいただけではなかなか知ることができない現場での産業衛生活動を目の当たりにし、大学にいる身としてどのような形で職場での労働衛生に貢献することができるのか、改めて考えさせていただく良い機会となりました。今後も参加をさせていただき、様々なことに研鑽を積んでまいりたいと思います。



会場風景

第 17 回 産業歯科部会研修会開催報告

朝日大学歯学部歯周病学分野 講師 金山圭一



2022年10月30日(日)に名古屋市ルブラ王山にて、東海地方会産業歯科部会研修会が開催されました。

はじめに、日本産業衛生学会・歯科特殊健診検討グループの取組みの紹介がありました。藤江正人先生(岡崎歯科医師会 成人歯科保健委員会)が、東レ岡崎工場などで実施された歯科特殊健診の概要について発表されました。岡崎歯科医師会作成の問診票・口腔写真添付の個人票の提示があり、今後増加が見込まれる歯科健診の対策に役立つ内容でした。

続いて、菅沼要一郎先生(浜松ホトニクス、作業環境測定士)から作業環境測定の基本と職場での活動紹介がありました。序盤に菅沼先生から「三管理の中で何が一番大事でしょうか」と参加者に問いかけがなされました。挙手の大半は作業環境管理でしたが、参加者から「まず教育では?」という逆問題提起もあり、会場の雰

囲気も和やかに進行していきました。浜松ホトニクスは健診を重視する文化があり、就業時間内に一般的な歯科健診を年一回受診できるとのことでした。この歯科健診は30年以上続いており、簡単な予防処置も含むもので非常に優れた社内制度であると感じました。

講演内に参加者同士が協働するワークも組み込まれていました。「作業環境測定結果が第一管理区分であったのに、体調不良者が出ました。何が考えられますか。」というものです。4~5人毎の参加者でグループになり、意見を交換しました。参加者の回答例は、デザインサンプリングの不適、過去の作業の影響、別の作業の影響、測定機器の不良などでした。その後、菅沼先生からワークに対する浜松ホトニクスでの実例を交えた解説がありました。双方向性の活発な講演であったという間の一時間半でした。

講演の後は、昼食をとりながら自己紹介や近況報告を行いました。私も含め初参加の会員には、会員の先生方の人となりを知ることができる貴重な時間になりました。東海地方会産業歯科部会は、様々な課題に対する意見交換、交流の場であると実感した研修会でした。



会場風景

第 92 回職場ストレス研究会 開催報告

2023年2月4日(土)、第92回職場ストレス研究会を現地開催(名古屋大学医学部) プラス Zoom 配信にて開催しました。

第1部として、柳澤博紀先生(犬山病院)にご講演「認知行動療法アップデートーセルフケアのワークを交えて」を賜りました。認知行動療法全般について、

マインドフルネスとACT(アクセプタンス&コミットメントセラピー)の体験やセルフコンパッションの紹介も含めてご説明いただきました。心理療法は500種類以上あり、心理士の得意分野も様々であること、認知行動療法師という資格が新設されたことなども紹介されました。第2部(座長:成定明彦)として、鈴木寛

之先生 (豊田西病院) から研究「許し・感謝・気づきのエクササイズ」のご紹介をいただきました。ご自身のストレス克服体験をもとに開発された、ネガティブな出来事をありのままに受け入れ (許し)、ポジティブな面を見出し (感謝)、些細で当たり前の出来事への気づきを通してより前向きな捉え方を身に着けることを目指すエクササイズの概要、および、精神科通院患者対象に無作為化比較試験を行って効果を検証したことをご紹介いただきました。その後のパネルディスカッション (座長：太田充彦・石川浩二) は、前半は柳澤先生と鈴木先生の間での、後半はフロアと座長からの質疑応答

という流れで進行了ました。鈴木先生のエクササイズは、多くの理論を応用したオリジナルのプログラムであり、今後さらに検証を深められることが期待されます。柳澤先生からは、ACT は集団への応用もされており、犬山病院のリワークでも導入していることも追加してご説明いただきました。

最新の心理療法について知ることができるとも貴重な経験となりました。多くの方々のご参加を得て盛会となりましたことを御礼申し上げます。

(文責 代表世話人：名古屋大学・八谷 寛)



事務局から

地方会理事会

2022 年度第 3 回理事会

日時：2023 年 1 月 7 日 (土) 10:00~12:00

Zoom による Web 会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 協議事項
 - 1) 今後の地方会執行体制について 2) 会長推薦理事について 3) 選挙について 4) 次回の理事会の日程について 5) その他
- III. 報告事項
 - 1) 2022 年度地方会学会開催報告 2) 第 35 回産業保健スタッフのための研修会準備状況 3) 2023 年度地方会学会準備状況 4) 本部理事会報告 5) 地方会事務局報告 6) 地方会活動方針検討委員会 7) 学術研究推進委員会 8) 編集委員会 9) 研修会企画委員会 10) 表彰制度推薦委員会 11) 選挙管理委員会 12) 部会報告 13) 職場ストレス研究会報告 14) 各県の活動報告 15) その他報告事項 16) 関連学会研究会開催情報 17) その他

2023 年度第 1 回理事会

日時：2023 年 6 月 17 日 (土) 10:00~12:00

Zoom による Web 会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 審議事項
 - 1) 前回理事会議事録の確認 2) 新体制について 3) 2023 年度総会について 4) 2024 年度地方会学会について 5) 第 36 回産業保健スタッフのための研修会 6) 活動費減額措置の継続について 7) 化学物質管理について 8) 次回の理事会の日程について 9) その他
- III. 報告事項
 - 1) 2023 年度地方会学会準備報告 2) 第 36 回産業保健スタッフのための研修会準備状況 3) 本部理事会報告 4) 地方会事務局報告 5) 地方会活動方針検討委員会報告 6) 学術推進委員会報告 7) 編集委員会報告 8) 研修会企画委員会報告 9) 表彰制度推薦委員会報告 10) 部会報告 11) 職場ストレス研究会報告 12) 各県の活動報告 (各県担当) 13) その他 14) 関連学会研究会開催情報

会員状況

2022 年 10 月 8 日～2023 年 5 月 1 日の推移
(2023 年 5 月 1 日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
増減	4(1)	-3(2)	0(0)	0(0)	1(3)
本部正会員	526(2)	229(0)	104(0)	44(0)	903(2)

※()は学生会員を表す

これからの行事予定

2023 年度 日本産業衛生学会 東海地方会学会

日時：2023 年 11 月 11 日 (土)
会場：日本福祉大学 東海キャンパス
テーマ：再考、ふつうのくらしのしあわせを支える
産業保健

第 36 回 産業保健スタッフのための研修会

日時：2023 年 10 月 14 日 (土)
会場：ウイंकあいち
内容：「事例検討」「データ分析」の現地研修

第 18 回 東海産業歯科部会研修会

日時：2023 年 10 月 22 日 (日)
講演：(仮) 口腔領域のストレス性疾患

第 33 回 日本産業衛生学会 全国協議会

日時：2023 年 10 月 27 日 (金)～29 日 (日)
会場：YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館
テーマ：多様化する社会と産業保健

日本産業看護学会 第 12 回学術集会

日時：2023 年 10 月 28 日 (土)～29 日 (日)
会場：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ
テーマ：とどけ！すべての働く人々への健康支援
～産業看護の力の結集～

第 82 回 日本公衆衛生学会総会

日時：2023 年 10 月 31 日 (火)～11 月 2 日 (木)
会場：つくば国際会議場
テーマ：実践と研究のシナジーが織りなす保健医療
介護サービスの進化と調和

第 31 回 日本産業ストレス学会

日時：2023 年 12 月 8 日 (金)～9 日 (土)
会場：一橋大学一橋講堂
テーマ：産業ストレスとキャリア、ライフの総合的
視座～働き方のリデザインへ向けて～

第 97 回 日本産業衛生学会

日時：2024 年 5 月 22 日 (水)～25 日 (土)
会場：広島国際会議場、他

編集後記

新型コロナの世界的な流行によって、人々の日常が大きく変化してから 3 年以上が経過しました。マスク着用も生活の中にしっかり定着しましたが、2023 年 3 月 13 日からは、効果的な場面はあるものの「個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねる」とされました。社会状況の変化に伴って、人々の考えを変えていくことは必要ではあるものの、人の行動は簡単には変えられない面も持っています。生活習慣がどうあるべきかを考える機会のひとつかもしれません。

西谷 直子

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子 (キヤノン)
副編集委員長：西谷 直子 (名古屋大学)
編集委員：赤津 順一 (日本予防医学協会)
伊藤 由起 (名古屋市立大学)
後藤 由紀 (四日市看護医療大学)
近藤 祥 (聖隷健康診断センター)
榊原 洋子 (愛知教育大学)
菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)
城 憲秀 (中部大学)
日笠ちはる (ブラザー)
山本 誠 (ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 8F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX：06-4964-8804 E-mail：jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1
有限会社トータルマップ
TEL：079-433-8081 FAX：079-433-3718